

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス アミスター			公表日	令和 8年 3月 17日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動や子どもたちの状態によって部屋をわけています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		室内・屋内共に死角ができないように職員を配置して安全に努めている。また子どもの状態によって個別に対応できる人数配置にしています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動内容や静と動で活動場所を区切り、子どもたちが認識しやすい視覚的表示をした環境構成になっています。また、各フロアはバリアフリーになっています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		子どもたちが触れる箇所は常に清潔に保てるよう消毒液で拭くなど感染症予防に努めています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		クールダウンしたり、学習に集中して取り組むなど、子どもたちの状態によって使用できる部屋があります。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		PDCAサイクルのステップを繰り返すことで継続的な業務の改善を図っています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に保護者との面談や情報交換をする集まりを開催し、職員間で情報共有し業務改善に努めています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日の職員ミーティングだけでなく事業所全体でのミーティングをおこない、日々情報共有に努めています。改善すべき内容はすぐに実行して振り返りをおこなっています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		現段階では、第三者による外部評価を行うことが出来ていません。今後、外部評価の機会を設け、業務改善に繋げていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的に事業所内研修や外部講師を招いた研修を実施して仕事へのモチベーション向上を図っています。また、レクリエーション等活動を取り入れられる研修も積極的に受講しています。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		5領域に基づき、職員が目指す姿と実際の子どもたちの姿を照らし合わせながら支援プログラムを作成して公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		日々の子どもの様子や活動の振り返りをおこなった上で定期的アセスメントを取り、個別支援計画書を作成しています。また、必要に応じて支援計画書の見直し等をおこなっています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画書作成には、その子どもに関わる全ての職員で気づきや様子を共有し、実際の様子が反映された支援計画の内容を検討し、作成をおこなっています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		作成した支援計画書を個別のファイルに入れ、場所を明確化させることで支援に関わる全ての職員が閲覧でき、支援の共有をしています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の発達支援の様子などをと定期的にアセスメントをおこない、事業所で使用しているシートに結果を記載して、それぞれがアセスメント結果を確認できるようになっています。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	事業所ですべての支援内容が記載されているフォーマットを使用することで必要な項目を適切に設定しています。支援内容についても支援に関わる職員で内容を検討し、具体的な内容を入れて設定することができています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	チームで綿密に話し合い、意見を出し合っ子どもたちの様子に合わせた活動内容の立案、検証をして次の活へ繋がっています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	上半期、下半期で月毎の目標とする子どもたちの姿をテーマに設定し、5領域に沿って事業所の特色を活かした活動ができるようになっています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	本人の特性などを検証しながら個別支援、集団活動を本人に合わせて支援計画に取り入れて作成しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	支援に入る前に事業所内で打ち合わせをし、職員ミーティングで当日のスケジュールの共有をして連携しながら支援をおこなっています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	支援終了後には、その日の発達支援の様子や反省、改善についての話し合いをおこなっています。小さな気づきでも共有して次の発達支援に繋げる具体的な方法を考えています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	日々の発達支援の様子を記載することができています。日々の支援内容を個々で残し、その様子を職員間で共有し、検証することで必要に応じて改善策の検討に繋がっています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	子どもの様子や保護者の困り感等により、定期的にモニタリングをおこない計画書の作成、見直しをおこなっています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○	ボランティアを受け入れたり、地域のイベント等に参加して事業所外との交流を図っています。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	活動によって複数の選択肢を用意して、自己選択の機会を作っています。自ら選択・意思決定し自立に繋がっています。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	児童発達支援管理責任者に加え、日々の発達支援を主に担当して子どもたちの状況を良く理解している者も同席しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	関係機関との連携をとれるように体制を整えています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	行事予定、下校時間の確認、その日の学校での様子等を送迎時に共有して学校と連携しています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	他事業所から利用を開始する際には、その事業所との連絡を取り、必要に応じて担当者会議を行い、引継ぎを行うようにしています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	現在小学生低学年～中学年が在籍しており、移行した実績がありません。今後、サービスを移行する際には相談支援事業所と連携を図りながら移行先の事業所へ支援内容等の情報提供を行っていきます。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	地域の児童発達支援センターと連携をし、助言・研修を受ける機会を設けることができるように検討しています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	法人内には放課後児童クラブが2事業所あるため、イベントの合同開催や集団レクリエーションなど交流の機会を定期的に設けています。	
33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	協議会等へ積極的に参加しています。		

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		保護者へ連絡用のツールを使用して日々の様子や状況を報告しています。必要に応じて電話や自宅へ訪問して対応し共通理解ができるように取り組んでいます。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		保護者参加型のイベントなどを開くことで情報提供の機会を設けていますが、研修の機会を提示できるようにしていきたいと思います。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		保護者に丁寧にわかりやすく伝えるよう心掛けています。支援プログラムはホームページに記載し、いつでも確認できる体制になっています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		定期的にモニタリングをおこない、保護者・子ども双方から聞き取りをして、前向きな意向になるように作成をしています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		保護者に丁寧にわかりやすく支援内容を伝え、同意を得ています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者からの声を大切にし、必要に応じて面談や助言をできる機会を用意し、支援をおこなっています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		事業所で保護者を招いて交流する保護者会を定期的に開催しています。また施設内に複数の事業所が存在するため、きょうだい同士の交流の機会も設定しています。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		事業所に苦情担当の窓口を設けることで、苦情が発生した際には迅速に対応できる体制を整えています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		組織のHPやSNSを利用して各事業所の月ごとの活動計画や行事などを公開しています。日々の様子はブログやSNSでリアルタイムで発信しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の保管場所を共通にし、扱う際には事業所内でのみ使用することを徹底対策しています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		わかりやすく丁寧な関わり方や伝え方などを心掛け、個々に配慮して情報を伝達しています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		事業所主催のイベントを開催して、地域の方々とも交流できる機会を作っています。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを作成しています。月に一回以上、災害・防犯を想定した避難訓練を実施して備えています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画を策定し、定期的に確認と必要な訓練を実施しています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		入所時にアレルギーやてんかん等について記載する用紙を保護者に提出してもらい、入所前に状況が分かるようにしています。また、記載があった家庭には直接確認をし、一覧で出すことですべての職員が周知できるようにしています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーの食物を除去したり、代替のものを提供しています。また、定期的に保護者に確認をしています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、日々職員間で連携を取りながら安全管理に努めています。また、定期的な見直しもおこなっています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時に直接保護者にお伝えしています。変更があれば随時連絡しています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		毎日職員ミーティングでヒヤリハットを共有して、原因や改善を話し合い再発防止に努めています。	

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止の研修を定期的に受けて、防止対策に繋がっています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		どのような時に身体拘束が必要になるか等、実際の子どもの様子を職員間で共有して話し合いをしています。また、支援計画書に記載して保護者に説明し了承を得ています。	